

# ピーター・フック

(2017年版)

作・小佐部明広

## 【登場人物】

〈北成別市の新進気鋭の劇団「演劇集団ネバーランド」のメンバー〉

若月篤 …… 脚本・演出。23歳。フリーター。

高橋寿樹 …… 役者。23歳。フリーター。

中村雷太 …… 役者。22歳。大学4年生。就職の予定なし。

佐藤智子 …… 役者。19歳。大学1年生。

忍遥香 …… 舞台監督。22歳。大学4年生。北成別市の劇場に内定。

後藤夏実 …… 制作。22歳。大学4年生。公務員試験に合格。

## 〈外部の人〉

長枝航輝 …… フリーの役者。25歳。フリーター。

牧野あすか …… 北成別市の15年以上続く劇団「劇団ヨイトマケ」の役者。

22歳。大学中退、フリーター。

佐藤誠 …… 情報Webサイト「札幌芸術デイリー」のライター。26

歳。

## 第一幕

札幌市内の劇場。

2014年3月14日、土曜日。本番1ステージ目終了。

舞台上には、平台や脚立、箱馬など舞台用具がむき出しで配置されている。

夏実が現れる。原稿を読み上げる。

夏実 本日はご来場くださいまして誠にありがとうございます。開演に先立ちましてお客様にお願いがございます。上演中、携帯電話等、音の鳴る電子機器の電源はお切りください。マナーモードになさいますしても、振動音が響き周りのお客様のご迷惑になることがございますので、必ず電源をお切りください。また、会場内での飲食喫煙、許可のない撮影は禁止となっております。予めご了承ください。

夏実、次の原稿を読み上げる。

夏実 このお話は、2014年3月14日、土曜日に、北成別市の新進気鋭の若手劇団、演劇集団ネバーランドが、札幌公演の1ステージ目を終えたところから始まります。なお、この物語はフィクションであり、劇中に登場する人物、地域、劇場、劇団は架空のもので、実在する人物、団体、地域、劇場、劇団とは一切関係がありません。予めご了承ください。

夏実は去る。

少しして音楽。

役者たち（寿樹、雷太、長枝、あすか）が現れる。雷太は顔面白塗り、白い衣装を着ている。

終演後、役者たちが舞台上に集まって喋っている。

少しして音楽がなくなり、役者たちの声が聞こえてくる。

みんな、あすかの話を面白がって聞いている。

あすか パスタ作ってんですよ。パスタ。え、こっちはスケジュー  
ルのこと話して帰りたいんですけどって、言えませんでしたけど、  
なんかよくわかんない草みたいなの乗ってるんですよ、パスタに  
で、ワインとか開けだしちゃって、あー早く帰りたいなって思っ  
てたんですけど、あの人酔ったらひどいじゃないですか。急にあ  
たしの横に座ってきて、肩に手とか回して、はあはあして、「俺  
とキスしてみない？」「いや、あの、スケジュールの話しないな  
ら帰ります。」って、もう慌てて出てって、そしたら帰り際に「他  
の人はみんなしてくれただけだね、まあ、キミはその調子で頑  
張って。」とか言われて。

雷太 それヤバイすね。

長枝 北成別の演劇界ってみんなそんなんばっかだよな。

雷太 つつうか「他の人はみんなしてくれただけだね」つつうのもヤバくな  
いすか。

あすか あたし次の日稽古場行って、役者とか見て、ああ、ここの  
女はみんなサガミさんに食われたのかって思って泣きそうにな  
りましたもん。

雷太 いやー、でも僕だったら、あすかさんは無理だな。

一同 （笑）

あすか え、無理ってなんですか！

雷太 いやー無理だなー。

あすか は、なんですかそれ！

遥香が現れる。

遥香 あ、すみません、ロビーにまだお客さんいるんで、ちょっと

抑えてください。

あすか あ、すみません。

雷太 すみません。

遥香が去る。

あすか （さっきより小声）無理ってなんですか。

雷太 いやー、（長枝に）だってあすかさんは無理だよな。

長枝 だからあすかさんはむしろサガミさんに感謝しないといけ

ないんじゃないっすか？ なんで断ったんすか？

あすか つつーかあたし彼氏いますから。

雷太 二次元にね。

あすか おい。

長枝 でも、あの子の作品って、別に面白くないよね。

雷太 やっぱり古いんだよね。なんか70年代の演劇ずっと引きず  
ってるっていうか、もう2014年だぞっていう（笑）。

長枝 そうそう。

あすか だからあたし若月さんって本当すごいと思うんですよ。

雷太 演劇ってやっぱり芸術なわけじゃない。若月さんの演劇って、  
絵画で言ったら抽象画みたいな、そういう新しさがあるよな。

あすか 冗談とか抜きにして、30代とか40代とかのヤツら入れ  
てもキタナンで今一番面白い劇団だと思いますもん。

長枝 それは言い過ぎじゃない？

あすか いや、まあもちろんあたし個人の意見ですけど。

長枝 俺はやっぱりわかりやすいのがいいからさ。

雷太 いや、だからそれはそれでいいと思いますよ。僕は。

長枝 でもやっぱりネバーランドのメンバーは若月の作品好きだね。

雷太 団員ですからねえ。

長枝 とめちゃくちゃくはない？

あすか だってとも子ちゃんも、もう教祖でしょ、若月さん。

雷太 あれっ、てかともは？

寿樹 とも、客出ししてたよ。若月の隣で。

雷太 ああ、なるほどね。

あすか え、なるほどってなんすか。

雷太 いや、なんでもないすよ。

あすか え、なんすか。教えてくださいよ。

雷太 いやいや、

遥香が現れる。

遥香に続いて、若月と智子、夏実、佐藤が現れる。

遥香 お疲れ様です。完パケです。お疲れ様でした。

一同 お疲れ様でした。

遥香 えーとじゃあ演出から。

若月 お疲れ様でした。

一同 お疲れ様でした。

若月 うん、まあ今日のステージは悪くはなかったんじゃないかな。  
札幌のヤツらになんかしら爪跡は残せたと思うね。ただ言うなれ  
ば、やっぱりもう少しおのおののパトスがもっとリンクして高め  
あっていけるとよかったかな。特に終盤のパトスが重なり合うタ  
イミング？ 群読、あそこがもっとハイパーリンクしていけると  
最高だったかな。まああとは、やっぱりもうちょっと多くのお客  
さんに見てほしかったな。まあ結局札幌っていうのは、演劇人ど  
うしが見合っていて、純粹に演劇を観る人口は少ないってことす  
よね。そういうところがやっぱりキタナンとは違うんだよね。

一同 (笑)

若月 じゃ、以上です。お疲れ様でした。

一同 お疲れ様でした。

遥香 えーとじゃあ制作から。

夏実 お疲れ様でした。

一同 お疲れ様でした。

夏実 今日の動員は43人でした。アンケートは24枚です。差し  
入れはおのおの確認してください。

若月 明日の動員は？

夏実 明日の動員予定は36人です。札幌の知り合いのいる人は、  
今からでももうワンプッシュしてみてください。

一同 (返事)

夏実 以上です。それで、とりあえずこの劇場は22時までいられ  
るんですけど、ホテルとってる人はホテル行ったり、友達の家泊

まる人はもう行って大丈夫です。以上です。

遥香 はい、それじゃあお疲れ様でした。

佐藤 あ、すみません、

夏実 あ、それでの、この前言ったライターの方がいらっしやっています。(佐藤に) えーと、まだ残っててもらった方がいいですね？

佐藤 あ、ええとみなさんこんばんは、札幌で「札幌芸術デイリー」というWebサイトを運営してます佐藤といいます。今回、北成別市で飛ぶ鳥を落とす勢いのネーランドさんが札幌にやってきたとききまして、よかったらインタビューさせていたいただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

一同 よろしく願います。

若月 あーそれじゃあちよつと舞台中央あたりに椅子並べて、じゃ

あ雷太と智子ちよつと座ろうか。

雷太 はい。

智子 え、私ですか。

若月 うん、座って。

智子と雷太は座る。

若月はその構図を見て、

若月 ……いや、逆だな。座る位置、逆。

智子と雷太は場所を入れ替える。

もういちど構図を確認し、

若月 うん、オッケーオッケー。

若月、智子と雷太の間に座る。

佐藤 あ、すみません、ちよつとビデオカメラを……、

寿樹 あ、僕ロビー行ってもいいですか。

若月 うん大丈夫。ですよね？

佐藤 あ、えーと、はい。また戻ってきますよね？

寿樹 ええ。ちよつとアンケートを。

佐藤 はい、どうぞ。

寿樹 じゃ、すみません。

遥香 あ、若月さん、22時までで。

若月 うん、わかっている。

夏実 (佐藤に) なにかあったらロビーいるので呼んでください。

佐藤 あ、はいありがとうございます。

寿樹と遥香、夏実は去る。

若月 岩ヲさん、ちよつと照明いただいていますか。ちよつとこの辺にパトス感じる感じまで。

照明、若月たちがいるあたりに斜めからの光。

若月 うん、ありがとうございます。

佐藤 あーかっこいいですね。それじゃあ、すみません。お願いします。

佐藤、ビデオカメラで録画する。

佐藤 えー、演劇集団ネバーランドのみなさま、本日はご協力いただきありがとうございます。では、これから色々とお聞きしていきたいと思います。よろしくお願いします。

三人 よろしく願います。

佐藤 あの、いきなり核心を突くかもしれない質問をさせていただきたいのですけれど、

若月 ええ。

佐藤 今回の舞台、平台とか箱馬とか、結構むき出しで置いてありますよね。やっぱりこれはわざと、こう見えるようにしてるんですか。

若月 そうですね。わざとですね。

佐藤 やっぱりそうなんですね。

若月 つまり、ブレヒト的な効果を狙ってるんですよね。こうやってわざと粗末な舞台装置にすることで、観客と一定の距離を保って批判的な思考を促すことによって物事の本質に迫らせるという手法がとられてるんですよ。いわゆる非アリストテレス的な手法ですよ。

佐藤 なるほど。

若月 テレビドラマとか、北成別の演劇もそうなんですけど、頭使わなくても見れちゃうじゃないですか。僕の思う演劇っていうのは、真理をつくるとか、物事の本質をつくるとか、それはつまり、我々が住んでいる世界よりも上位の、いわゆるイデア界的な抽象的概念を表現することが重要だと思ってるんですよね。

佐藤 なるほど。イデア界的な抽象概念。

若月 そうですね。はっきり言って、北成別の芝居もたくさん見てきましたけど、やっぱり演劇に向き合う姿勢がダメですね。技術ももちろんあるんですけど、それ以上に芝居に向き合う姿勢がよくないんですよ。キタナンの芝居は、かっこよく見られたいとか、ウケを狙いたいとか、売りたいとか、いうなれば邪念ばかりなんですよね。だからやっぱり僕たちが、誠実に、真の演劇っていうものをきちんと作っていったら、北成別をリードしていかなきゃいけないんです。これは、やっぱり天才に課せられた使命なんだと思いますね。

佐藤 あーなるほど、演劇集団ネバーランドは北成別を背負っている。

若月 ええ、まあ、そうなりますね。

佐藤 ーなるほどなるほど。ちなみにみなさま今いくつとか、まだ学生の方々ですか。

若月 ええと、僕と役者の寿樹はもう卒業していて、中村（雷太）とさっきの舞監の忍（遥香）、制作の後藤（夏実）が今年卒業ですね。

佐藤 あの僕さっきからちよつとききたかったんですけど、そちらの方は顔の白いのはとらないんですか。

雷太 いや、あのこれはちよつと落とすのが面倒くさくて、風呂入るとき、ついでにとればいいやと思って、

佐藤 あ、深い意味とかは特にないんですね。

雷太 あ、はいすみません。

佐藤 すみません、ちよつと気になったので。

若月 それでこの、今日主役をやった智子はまだ一年生なんです

よ。

佐藤 あ、え、まだ一年生なんですか。

智子 あ、はい、あの、はい。

佐藤 すごい、(若月に)堂々と演技なさってましたよね。

智子 あ、あの、はい、

若月 彼女は、すごい才能を持っているんです。いわゆる熱情、僕たちはこれをパトスと呼んでいるんですけど、僕の書く芝居はこのパトスがとても重要になってくるんですね。彼女はこのパトスのエネルギーがとても強いんです。

佐藤 あーパトスが、はい。(智子に)どのようないきさつでこの劇団に入られたんですか。

智子 あ、はい、あの、私、すごい高校生のときとか、絶対すごい、女優になるってすごい思ってた、でも、そのときはすごい、テレビドラマとかの女優さんにすごい憧れてたんですけど、すごい、若月さんの演劇を見てすごい衝撃を受けたというかすごい、とにかく、……すごいっていうか、すごいすごかったです。若月さんって、いろんなこととかすごい、難しいこととか知ってるし、だからすごい、尊敬してますし、私は北成別で、一番すごい劇作家・演出家だとすごい、思っていて、だからすごい、私なんか若月さんと一緒に芝居できるなんてすごい、嘘みたいだと思って……、本当にすごい、嘘みたいだと思って……、

智子、感極まって喋れなくなる。

若月 (舌打ち)お前そうやってすぐ泣くなよ。お前の涙とか別に見たくねんだわ佐藤さんも。

智子 はい、すみません。

若月 すみませんじゃなくて、困ってんだらう佐藤さんも。

佐藤 ああいえ、あの、

智子 すみません、ほんと、(立ち上がって佐藤に)すみませんでした。

若月 うんいいいよ、座れ。

智子 はい、すみません。

若月 (智子の頭をなでて)まあお前も頑張ってるから、(佐藤に)あ、すみませんね。

佐藤 ああ、いえいえ、

若月 (智子に、頭を撫でながら)ほら、許してくれてるから、大丈夫だよ。お前頑張ってるから。

智子 はい、ありがとうございます。

若月 ……(佐藤に)あ、すみません次いって大丈夫ですから。

佐藤 あ、はい、すみません。ええと、中村さんは若月さんの作品についてはどう思っているんですか。

雷太 僕は、まあやっぱりすごいと思いますね。すごい僕なんか全然思いつかないような感じとがありますし、

夏実が現れる。

夏実 あ、智子ちゃん、今大丈夫？

智子 あっはい、なんです？

夏実 なんか今日川上さん？とかいう人が観に来てたみたいで、時間あるときに話したいって言って連絡先置いていったんだけど。

智子 あっえーと、

若月 いや、いいよ行つといで。  
智子 あっはい、すみません。

智子、夏実から連絡先の書いてある紙を受け取って、携帯電話を取り出す。

夏実 あ、ケータイ外の方が繋がりやすいよ。

智子 あっはい。

智子は去る。

佐藤 あーすみません、もう一度お願いしても大丈夫ですか。

雷太 ああはい。僕は、まあやっぱりすごいと思っていて、

遥香が現れる。

遥香 あ、ちよっとそろそろ舞台上掃除したいんで、あけてもらえたりしますか？

若月 あー、じゃあ続きはロビーの方でも大丈夫ですか。

佐藤 あ、わかりました。

雰囲気のある照明が解かれる。

寿樹が現れる。

寿樹 あ、終わったの？

若月 いや、ちよっと掃除あるから、ロビーに移動。

寿樹 あ、了解す。

若月と佐藤、雷太は去る。

遥香、掃除を始める。

遥香 (インタビューを受けていたのは) ずっとあの3人でした？

あすか あーそうですね。

寿樹 若月すぐ雷太と智子選んだからなあ。

長枝 やっぱそうだよ。俺もそう思ったんだよ。

寿樹 どうせ若月を称える会みたいになっただんでしょ。

あすか まあ、そうですね。

長枝 遥香ちゃん、元彼さんなんとかしてよ。

遥香 知らんわ。

寿樹 知らんわ(笑)。

あすか 若月さんって智子ちゃんのこと好きなんですか。

寿樹 ……うん、いや、っていうか付き合ってるからね。

あすか あ、えっそうなんですか。

遥香 うん、だからよかったじゃん両想いで。ハッピーハッピー。

あすか (寿樹に小声で) あっすみません。

寿樹 いや、でも今は雷太がいるじゃない。

あすか え、あれ、そうなんですか。

遥香 うん、だから、別に全然気にしてないよ。

寿樹 あっそう。

遥香 うん、全然。

寿樹 (長枝とあすかに) 今回は客演していただいてありがとうございます。

います。

長枝 あーいやいや、



あすか いえいえ、

寿樹 長枝さんは結構いろんなとこ客演してますけど、ウチはどんな感じですかね。

長枝 俺は、どうして俺はこんなところにいるんだろうって思うね。寿樹 そうすか（笑）。

長枝 いやーもちろん呼んでもらえるのはありがたいんだけど、なんかあいつの言ってることってすごく難しいんだよ。

寿樹 あーそうですよ。

長枝 だから便所じゃなくてWCみたいな。

寿樹 ……あー……？

長枝 だから便所って言ったら便所じゃない。でもWCって言ったらすごい哲学的な便所みたいな感じがするじゃない。

遥香 ……だからつまり、難しい言い回しをするみたいの意味ですよ。

長枝 そうそう、そういうこと。

あすか でもそれはやっぱりニュアンスの問題っていうか、便所って言うニュアンスと、WCって言うニュアンスはやっぱり違うじゃないですか。だから若月さんの求める演劇は便所的な演劇じゃなくて、もっとWC的な演劇だっていうことなんだと思いますけどね。

寿樹 ちょっと例え変えてくれませんか。ウチがトイレ演劇作ってるみたいなんです。

長枝 それだよ。トイレ演劇だよ。俺はトイレ演劇を目指すべきだと思っただよ。

一同 ……。

長枝 いやだから、つまり便所演劇でも、WC演劇でもなくて、ト

イレ演劇を目指すべきだと思っただよ。

一同 ……？

長枝 あれ、なぜわからない？

寿樹 わかんないす。

長枝 だから、便所って言ったらちょっと下品じゃない。でもWCって言ったら上品すぎるのさ。でもトイレだったら下品じゃないし上品すぎないじゃない。

遥香 だからつまりちよっどいいところがいいってことですよ。

長枝 そうそう、そういうこと。

寿樹 長枝さん通訳の人つけた方がいいんじゃないですか？

長枝 え？ 通訳が必要なのはキミらの方じゃない？

智子が現れる。

智子 あの、寿樹さん。

寿樹 ん？

智子 あ、ええと、……いや、はい、あの、はい、

智子は楽屋側から去る。

寿樹 え、なに？

長枝 え、なんなの？

寿樹 さあ。

佐藤が現れる。

佐藤 お疲れ様です。

一同 あ、お疲れ様です。

佐藤 ちょっとお時間よろしいですか。

寿樹 あ、むこうの人は、もう終わった感じですか。

佐藤 はい。たくさん話していただきました。

寿樹 帰りました？

佐藤 あーいえ、なんかアンケートを読むって言ってました。

寿樹 あーそうか、あんま、んん、

佐藤 あれ、なんかあるんですか？

寿樹 あー全然。

佐藤 じゃ、すみません、ちょっとお話を伺いたいですけど。

寿樹 あーじゃあ長枝さんトイレ演劇の話をお願いします。

佐藤 え、なんですかトイレ演劇って？

寿樹 これすごい興味沸きますよね。長枝さん、ちょっとお願いします。

ます。

佐藤 お願いします。

長枝 いいでしょう。じゃあちょっとイス並べて。

あすか あ、はい。

寿樹とあすか、イスを並べる。

長枝 座って。

寿樹とあすかは座る。

長枝 ……いや、逆だな。

寿樹とあすかは場所を入れ替える。

長枝 岩ヲさん、ちょっと照明いただいてもいいですか。この辺にパトス感じる感じで。

照明、長枝たちがいるあたりに斜めから光。

長枝 はい、ありがとうございます。

佐藤 それじゃあすみません、お願いします。

夏実が現れる。

夏実 すみませーん、あと15分で退館時間です。

寿樹 あ、今ちょっと（録画してるから）

夏実 あ、すみません。

長枝 あの、さっきも言ったんですけど、俺たちはトイレ演劇をやらなきゃいけないと思うんですよね。

佐藤 ほう、そのトイレ演劇ってというのはどういうものなんですか。

長枝 だから、つまり便所演劇っていうのと、WC演劇っていうのがあるじゃないですか。でも俺たちはトイレ演劇をやらなきゃいけないんですよ。

佐藤 ……えーと、その便所演劇とWC演劇ってというのはどういうものなんですよ。

長枝 だからつまり、便所ってちょっと下品じゃないですか、でもWCだと上品すぎるんですよ。だからトイレがベストなんですよ。

佐藤 ……あー、えーと……。

長枝 あれ、わかりませんか？

佐藤 いや、あの、便所とWCとトイレは同じものですよ？

長枝 俺の話きてましたか？ 便所は下品なんですよ。でもWC

って哲学的な便所じゃないですか。ここまではわかりますか？

佐藤 WCが哲学的な便所……？

長枝 そうです。WCは哲学的な便所ですよ？

佐藤 いや、えーと、さっきの若月さんの話もすごく難しいと思っ

たんですけど、その比にならないくらい難しく、ちよつと僕

にはわからないですね。

長枝 どこがわからないんですか？

佐藤 えーと、全体的にわからないというか、

夏実 だから中庸がいいってことですよ。

長枝 チュウヨウ？

夏実 だから、手垢にまみれたありきたりな表現は避けつつ、でも

気取り過ぎたり堅苦しすぎたりする表現にならない、ちよつどい

い表現を常に心がけなきゃいけないってことですよ。

あすか おお。

長枝 そう、つまりそういうことなんですよ。

佐藤 あーなるほど、ちよつどいいところを狙わなければいけない

と、そういうことなんです。

長枝 それがトイレ演劇。

佐藤 ……あーなるほど。ありがとうございます。危うく彼の迷宮

から抜け出せないとこでした。

長枝 一本道です。

佐藤 ……はい、わかりました。あの、今日はもうアレなんですけ

ど、明日も観ていきますので、もし時間ありましたら、もう少し  
じっくりお話ししたいと思うんですが、大丈夫でしょうか？

夏実 はい、たぶんちよつと時間余ると思うので、そのときにでも

また。

佐藤 ありがとうございます。それではお疲れ様です。今日はあり

がとうございました。明日もよろしく願います。

一同 よろしく願います。お疲れ様です。

佐藤 お疲れ様でした。

佐藤は去る。

あすか 夏実さん、よくさっきのでわかりましたよね。

夏実 すいでしょー。

あすか (寿樹に) なんか、夏実さんって意外としっかりしてますよ

ね。

寿樹 うん、ちよつかり4月から公務員だしね。

あすか えーどこで働くの？

夏実 一応市役所です。

あすか 北成別の？

夏実 はい。

あすか うわーしっかりしてる。

寿樹 ここ3人はフリーターズだからね。

長枝 いいじゃない。ねえ？

あすか 一緒にしないでください。

夏実 いやでも、そんなこといったらおしはるの方がすごいですよ。

あすか え、なんですか？

寿樹 4月から劇場で働くんだって。

あすか え、劇場ってどこのですか？

寿樹 ふれあい。

あすか え、ふれあいですか。

遥香 どうも、ふれあいです。

あすか うわーすごい、いいなー。

長枝 やめて、そういう話しないで。やめてー。

夏実 そろそろ（帰る）準備してくださいねー。

一同 （返事）

あすか 夏実さん、それ（服）ウラオモテ逆じゃないですか？

夏実 え？ ……！ なんだよこれ。早く言ってよー。これで受付

しちゃったよ。なんだよ。うわー。

寿樹 はいはいもう出るよ。

夏実 なんだよー。

遥香 あ、長枝さん、ちょっといいですか。

長枝 ン、なに？

遥香 長枝さんって、確かお笑い好きですよね？

長枝 ああうん、

夏実 おしはる時間ね。

遥香 うんわかっている。（長枝に）イノシシサンドって知ってます？

長枝 え、それなに芸人？

遥香 ちょっとマイナーなんですけど、

寿樹、夏実、あすかは去る。

遥香 私すごいイノサンがお気に入りなんですよ。

長枝 ああ、イノシシサンドでイノサンね。

遥香 そうなんですよ。

遥香、スマホでイノシシサンドの動画を長枝と見ようとする。長枝と距離が近い。

遥香 あーやっぱり電波悪いですね。

遥香、電波をよくするめスマホを上下左右に動かしたりする。

遥香 ダメですねー。あとで地上出てからみましょう。

長枝 ああうん。

遥香 長枝さんって、このあとはホテルですか。

長枝 ああうん。

遥香 ホテルでなんかするんですか。

長枝 いや、まあお風呂入ってすぐ寝ようっかなって思ってるけど。

遥香 あーそうなんですか。私、昨日は札幌の友達の家泊まった

んですけど、今日その友達都合悪くなっちゃって、どうしようか

なーって、

長枝 ああそうなんだ。でも、たぶんその辺のホテル空いてると思

うけど。

遥香 でも私すごいお金ヤバいですよ。泊まるお金もなくて。

長枝 ああそっか。

遥香 あの、もしよかったら長枝さんのところにこっそり泊めても

らえませんか。

長枝 え、いやーでも難しいんじゃないかな。

遥香 大丈夫ですよ、こっそり行けば。

長枝 でも、じゃあ夏実ちゃんのとこ泊めてもらえばいいんじゃないかな。

遥香 うーんでも、明日で公演終わっちゃうじゃないですか、そしてらもう長枝さんと会えなくなっちゃうし、今のうちに長枝さんといろいろ話したいっていうか、

長枝 ああ、でも、同じところに泊まるっていうのは、だって雷太のこともあるし。

遥香 ああ、……雷太ってすごい子供っぽっていうか気が利かないっていうか。だから一緒にいて疲れちゃうっていうか、長枝さんってすごい気が利くし、一緒にいても楽しいし、なんていうか一緒にいて安心感があるんですよ。

長枝 ああ、そうなんだ。

遥香 いや、別に男としてっていうか人間として長枝さんいいなって思ってる、

長枝 ああそうなんだ。いやーでもなあ。

遥香 私のこと嫌いですか。

長枝 いや、あの別に嫌いってわけじゃないんだけど。

遥香 すみません、なんか私すごい迷惑なこと言ってますよね。

長枝 いや迷惑ってことではないんだけど、

遥香 ……。

長枝 あ、うん、じゃあこっそりね。誰にも言わないですよ。

遥香 えー！ ありがとうございます！ やっぱり長枝さんって、優しいですね。

遥香、長枝と距離が近い。

長枝 ああうん、でも本当、ホテルの人にもバレないようにね。

遥香 はい、ホテルと一緒にイノサン見ましようね。

長枝 ああうん、それは楽しみ。

若月と雷太が現れる。

遥香 あ、お疲れ様です。

若月 ちょっとごめん智子知らない？

遥香 あ、なんかさっき楽屋の方から出てきましたけど。

若月 トモコ！

智子の声 はい！

若月 あーいたいた。ちょっと来い。

智子が現れる。

智子 はい、

若月 ごめんちょっと稽古するからどいてもらっていいですか。

雷太 若月さん、アンケートなんてそんなに気にしなくてもいいと思えますよ。

若月 やっぱり札幌の観客はキタナンより感性が低かったんだよ。

俺がたかをくくってたのが悪かったんだ。だから俺たちはバカでもわかるように圧倒的なパトスで観客をねじ伏せなきゃいけないんだ。わかるか。俺の言ってること間違ってるやないよな？

雷太 はい、間違ってるやないです。

若月 智子、独白のポジション立って。

智子 はい。

夏実が現れる。

夏実 若月さん、10時退館なので、

若月 うん、わかっている。あー、ちょっと早く舞台上からどいてもらっていいですか。

智子以外、返事して舞台上からいなくなる、

若月 えーとじゃアイデアラーゼの独白「人も、ライオンも」からいこう。あ、すみません、照明、音響もお願いします。よーいはい。

情熱的な照明。厳かな音楽。

智子 人も、ライオンも、ワシも、雷鳥も、一切の生き物、生きとし生ける物は悲しいめぐりを終えて消え失せた！ しかしその魂は滅びることなくさまよい続け、遂にはひとつになり私となつた！ 私はアイデアラーゼ！ 私は非存在であり、全存在でもある！

若月、手を叩く。

照明は戻り、音響はなくなる。

若月 全然。パトスが足りない。キミは全存在なんだ、例えばアレク

サンドル大王、シーザー、シェイクスピア、ナポレオン、その全ての魂がキミなんだ。そして、それら全てを統合した美しさであり醜さなんだ。俺はもっとアイデア的なものが見たいんだよ。もっとパトスを高めるんだ。ちょっとパトスためて。

智子 はい。

智子、しばらく黙る。

智子 たまりました。

若月 もう一回。よーいはい。

再び情熱的な照明。厳かな音楽。

智子 人も、ライオンも、ワシも、雷鳥も、

若月、手を叩く。

照明は戻り、音響はなくなる。

若月 パトス履き違えんなよ！ いいか、キミは全存在なんだ！ 全時間で全空間なんだ！ キミは世界を包括する存在なんだ！ わかってんのか！

智子 わかっています。

若月 わかっているんだったらどうしてやらないかなあ。

智子 すみません。

若月、深くため息。

若月 ……うん、うん今日はもう時間もないからいい。明日日本番前に稽古するから、きちんと台本読んで、理解して、想像して、パトスを高めてください。

智子 すみません。

若月 お疲れ様でした。

智子 お疲れ様でした。

若月と智子は去る。

—幕。

## 第二幕

2017年3月18日、土曜日。本番3ステージ目終了。千秋楽の前夜。

夏実が現れる。原稿を読み上げる。

夏実 本日はご来場くださいます誠ありがとうございます。開演に先立ちましてお客様にお願いがございます。上演中、携帯電話等、音の鳴る電子機器の電源はお切りください。マナーモードになさいますも、振動音が響くことがございますので、必ず電源をお切りください。また、会場内での飲食喫煙、許可のない撮影は禁止となっています。予めご了承ください。

夏実、次の原稿を読み上げる。

夏実 このお話は、2017年3月18日、土曜日に、北成別市の新進気鋭の若手劇団、演劇集団ネバー・ランドが、札幌公演の3ステージ目、翌日の千秋楽を残し、全てのステージを終えたところから始まります。

夏実は去る。

少しして音楽。

役者たち（寿樹、遥香、雷太、長枝、あすか）が現れる。雷太は顔面白塗り  
で、白い衣装を着ている。

終演後、役者たちが舞台に集まって喋っている。

少しして音楽がなくなり、役者たちの声が聞こえてくる。

あすか　すごい鬱々としてて、ツイッターとかもひどいじゃないですか。「今俺が死んだとして世界はなにか変わるだろうか。」とか「アリをちよūdō百匹潰した。こやって弱い者は強いものに殺されていく。」とか。

雷太　まあ、まあね。

あるか　別にそれだけならいいんですけど、すごいあたしたちが稽古遅刻したらすごい怒るくせに、自分はすごい、しかも無断で稽古とか遅刻してくるじゃないですか。あたしそれすごい腹立つんですよ。

雷太　いや、だから若月さんもスランプというか、小藤田くんとか出てきちゃったじゃないですか。だからすごい立場がないというかなんというか、

長枝　え、その小藤田ってだれ？

あすか　え？　知らないんですか。

長枝　だれ？　芸人？

雷太　あの、若月さんの2つ下の世代で、劇団キャプテン・フックっていう劇団があるんですけど、きいたことないですか。

長枝　あー、なんかチラシは見たことあるわ。

雷太　今すごい、北成別新進気鋭の若手って言われてて、だから3年前の僕たちみたいなの、だからすごい今キタナンで注目されているんですよ小藤田くんが。

長枝　へーそうなんだ。

雷太　だからなんていうか若月さんもあんまり注目されなくなっただけで、来週ここでキャプテン・フックが公演するらしい

んですけど、3年前佐藤さんっていうライターの人来たじゃないですか。なんかその人もキャプテン・フックのこと取材するみたいで、だから、すごい若月さんも焦ってんですよ。

あすか　でも、別にだからってあたしたちに強くあたる理由にはならないじゃないですか。

雷太　いや、それはもちろんそうなんですけど、あすか　若月さんおかしいですよ、そういうことするから信用なくすんじゃないですか。

雷太　いやだから、でもあすかさんだって遅刻するじゃないですか、別に人のこと言えないじゃないですか。

あすか　いやそうですけど、若月さんの態度が問題なんですよだから。

遥香が現れる。

遥香　あ、すみません、ロビーにまだお客さんいるので、ちょっと

抑えてください。

雷太　あ、すみません。

あすか　すみません。

遥香が去る。

雷太　（さっきより小声で）それに、だからとものこともいろいろあったっていうか、

あすか　いろいろってなんすか。

雷太　だから、なんかメアドとか電話番号とかも変えたかなんかで



全然アレらしいっつうか、

あすか だってそれは仕方ないじゃないですか。ともちゃんが若月さんのダメさ加減に気づいたっていうだけじゃないですか。

雷太 え、あすかさんなんでウチに客演したんすか。

あすか いやそれは、だってこんなんだって知らなかったし、

雷太 いやでも、やっぱり出ることになったからにはちゃんと仕事しないといけないと思うんですけど。

あすか は？ いや、だからあたしちゃんと仕事はしてんじゃん。

雷太 いや、でもあすかさん雰囲気悪くてますよ。

あすか いや、雰囲気悪くしてんのはあたしじゃなくて若月さんでしょ。

長枝 まあまあ、そんなケンカしても仕方ないから。

遥香が現れる。

遥香に続いて、若月と夏実が現れる。

遥香 お疲れ様です。完パケです。お疲れ様でした。

一同 お疲れ様でした。

遥香 えーとじゃあ演出から。

若月 おいマキノ！ お前はなんで最初の独白毎回とちるんだよ

！ 何回目だよ！ いい加減セリフちゃんと覚えろよ！ お前何年演劇やってんだよ？

※無料版はここまでです。ご覧くださりありがとうございます。全編はクラアク芸術堂の販売ページ（左のURL）から購入できます。ありがとうございます。

<http://www.clark-artcompany.com/public>

## あとがき

3年前に、自分の劇団のためにこの台本を書いて上演した。当時、いろんな人（主に演劇関係者）に怒られるかもしれないと恐れながら稽古していた気がするが、上演してみれば、その関係者たちは自分のことを棚に上げて笑っていた。それから3年後、この台本を、僕がやっている「ゆりいか演劇塾」という演劇プロジェクトの公演で上演することにした。出演者は、当時の僕たちの年齢に近い人が多い。3年前の僕たちにとって切実だった問題が、今の彼らにとって切実な問題になっているかもしれない。

上演に取り組むにあたって、まず、役の名前は出演者の名前をそのまま使うことにした。また、台詞は内容がだいたい同じであればよく、正確に覚えなくともよいことにした。初演の時もそのような方針だったので、今回もそのようにした。初演の時は出演者が11名だったが、今回は都合により9名になった。もともと2つだった役が、1つになったりしている。初演の面白さを超えることを目指して、出演者には頑張ってもらっている。

この物語は、途中で3年のときが経過している。僕も、この作品の初演から3年が経った。僕は大人になっただろうか。

2017年3月16日 小佐部明広

## 《上演記録》

ゆりいか演劇塾第4期公演『ピーター・ブック』

### 【キャスト】

若月篤  
高橋寿樹  
中村雷太  
佐藤智子  
忍遥香  
後藤夏実  
長枝航輝  
牧野あすか  
佐藤誠

### 【スタッフ】

作・演出・音響 ことばあきひろ  
演出補 若月篤  
舞台監督 長枝航輝  
照明 岩ヲ脩一 (Region Xross Inc.)  
衣装 後藤夏実、佐藤誠、高橋寿樹  
小道具 牧野あすか  
演出助手 中村雷太、佐藤智子  
制作・宣伝美術 山木眞綾、種田基希  
宣伝美術 山木眞綾

### 【日程】

3月19日(日) 20時半  
3月20日(月祝) 10時半／17時

【場所】

扇谷記念スタジオシアターZOO

【料金】

一般 1200円  
高校生以下 500円

※実際の上演内容と一部異なる場合があります。ご了承ください。

2017年3月16日 第1刷制作  
2017年10月4日 第2刷制作

《『ピーター・フック』の上演について》

「一般前売入場料2000円未満」または「公演予算100万円以下」の  
場合は、脚本使用料は**無料**です。それ以外の場合は、協議の上、総予算の  
3%程度を脚本使用料とします。上演のお問い合わせはクラアク芸術堂企画  
運営委員会まで。

【クラアク芸術堂企画運営委員会】

clark.artcompany@gmail.com